

研究協議会当日に寄せられた質問一覧

・鈴木先生の学生さんで自律性がなかなか出ない学生さんに対しては鈴木先生はどのようにフォローをされていますか。

⇒当専攻では入学時のオリエンテーションにおいて、学位は奪い取るものである、大人扱いするから必要に応じて遠慮なく援助要請をするように、と宣言しています(のように回答済みだったと記憶しています)。自律性が高ければ苦勞せずに指導できますが、そうでない場合は、自律性を高める方法を教えていく必要があります。

・中国語圏の学習者などは、完全に受け身で学習することに慣れていて、教員から教えてもらったことを完璧に覚えることが学習であり、自律的にやらせるのは教員の怠慢だというビリーフがある場合もあります。こうしたビリーフが強い学習者に自律的な学習の一步を踏み出してもらうために、どのような活動をさせると良いでしょうか。

⇒日本もかつて儒教思想でそういうものだと思われてきた文化がありました(今でも残っているようにも思います)。受験勉強の弊害として正解を覚えるのが学びだと思っている者も少なくありません。米国のエリート校入学者ですら正解主義に凝り固まっているという研究を受けて、それを段階的にほぐしていくモデルが提案されています。ペリーの認知的発達段階説と言います。『学習設計マニュアル』第4章にて紹介しています。

・現在日本の大学の授業時間は90分ですが、オンライン授業が一般化されたときにこの授業時間(90分)は妥当だと思われますか。あるいは何分ぐらいが適切だと思われますか。

⇒オンライン化によって、短時間の学びを何回も求めることができるようになり、研修時間の配置がより柔軟になってきたと言われています。オンラインであろうがなかろうが、ヒトの集中時間は15分が限界という点からは、90分であれば15分の活動×6つのように区切るのがお勧めです(のように回答済みだったと記憶しています)

・中国の清華大学など、ICT教育など積極的に取り組んでいると聞きます。オンライン留学も国家戦略で積極的にやっている国もあると聞いています。最近、大学教育で、画期的な取り組みや、ICTが進んでいる大学の状況など何かご存じですか

⇒オープンコースウェア(OCW)からMOOCsへの動きを参照するとよいでしょう。日本にもJ-MOOCがありますが、それぞれの国にC-MOOCやK-MOOCなどがあります。

・課題添削する日本語が、翻訳ソフトを通したものかもしれないときに、どう評価すればいいのか頭が痛いです。何かアドバイスをいただけますか。

⇒コピペを診断するソフトもありますが、コピペできないオリジナリティを求めると学習目標がより高度になり応用志向になると思います。

・大学の大人数一斉授業だと、生徒のレベル差が大きいです。できない生徒の課題を細分化する手助けの方法について、ICT(機械)を使ってどんなことができるか、もしよければ教えてください

⇒基礎を繰り返し学べる手立てを提供してあげることで、機械的な反復作業から教員自身を解放するのが良いでしょう。学習支援システム(LMS)上の自動採点クイズなど、できるまで何回でも挑戦する仕組みを準備することで、その結果を記録してくれるので便利なツールです。

・良い「非同期の課題」の一般的な要件とは？ どんな項目があるでしょうか。

⇒学習目標への到達の手助けとなるもの、徐々に近づいていけるものでしょうか。ARCSモデルで言えば、C-2の作戦になります。

・毎日長時間オンラインを続けていて精神的につらくなってしまう学生もいます。どのように対応すればいいでしょうか。

⇒疲れる前に休むこと、集中力を維持できているかどうかをモニタリングすることを教えることでしょうか。ARCSモデルで言えば、A-3の作戦になります。

・交流距離理論に関して、詳しく書かれているお勧めの書籍等があれば教えていただけますか。

⇒「交流距離理論」で検索すると上位に登場する結果の中では、以下を勧めます(拙著)。あとは参考文献からたどっていくことができるでしょう。

https://idportal.gsis.jp/files/JSET2021S_suzuki.pdf

<https://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/publications/journal/no21/08.pdf>

・中国の学生と日本の学生とのハイブリッドで、DINGTALKというソフトを使っています。このソフトにはブレイクアウトルームがないため、グループディスカッションができません。なにか、代案として、DINGTALKと併用できる、グループディスカッション可能なソフトがあれば、教えてもらえるでしょうか。DINGTALKを使っているのは、中国でZOOMができないから、ということです。

⇒中国では使えないソフトがあるから様々な工夫をしていると日本語教師から聞いたことがありますが、私自身は中国在住の学生を相手にしていないので、知りません。

・「スマホ脳」という言葉を最近よく聞くので、デジタル機器を使った学習はしっかり頭に残るのだろうか、不安になることがあります。先生方はどのように考えますか。

⇒「スマホ脳」については様々な立場があるようですが、いずれにせよスマホ利用を避けることはできないので上手に使うことでしょうか。頭に残っているかどうかは取り出さしてみないとわかりませ

ん。忘れた頃に取り出してみると忘れていたかどうかが判明します。

・デジタル教材を使うと、さらりと流れていって、学習の定着効率が落ちているような気がします。定着率を向上させるデジタル教材の作り方についてアドバイスを頂けませんか。
⇒アウトプットさせる機会を頻繁に(忘れた頃にも)設けることでしょう。インプットしている間は定着しているかどうかは分かりません。デジタル教材でなくても、放置しておけば翌日には半分は忘れていたのが普通です。Use it, or lose it. と言います。

・掲示板は、何故 30 人以上だとダメになるのでしょうか。自ら発言しなくなるからですか？それとも、機能的な制限ですか？
⇒前者です。機能的には人数の制限はありません。30 人に制限しても自ら発言するとは限らないので、発言してもらう工夫が必要です(例:書き込んだら誰かの書き込みに 1 件以上コメントすることを通過要件とする)。

・オンライン授業に強い拒絶反応がある、デジタルが苦手な非常勤の先生への対応に、苦労しています。アドバイスをいただければ幸いです。
⇒食わず嫌いであればまず心理的な安全性を確保した環境の中で試してもらうことでしょうか。まずは学習者としての経験、次に教授者としての経験をしてもらうとよいでしょう。

・同期・非同期のブレンドで実施していますが、同期の授業で説明の途中などでいろいろ質問が出るのが、ほかの学習者にも役に立っているのでは、と思います。非同期の場合、自分では疑問に思わなかったことをほかの人に気づかされるという点で、そういう疑問の共有をするのが難しいのではないかと思います。先生方はどのように考えますか。
⇒本専攻では、他者の気づきに刺激を受ける学習環境として掲示板を多用しています。大福帳への書き込みを次の時間に共有することでも同様な効果が得られます。必ずしも説明の途中である必要はなさそうです。

・教師の自律性を育てることも重要だと思いますが、その点で教師はどういう視点が大事だと思いますか？
⇒自律性を育てることが大事な時代であることを覚悟し、自律性を育てることは可能であることを受け入れ、そのための工夫にどのようなことがあるかを学ぶ必要があることを認識するとよさそうです。自分ができないことを教えることは難しいですから。

・藤本先生のカイスクールさんの例では TA の取り組みや課題提出についてはどうされていたか、もう少し具体的にお話を聞かせていただけますか。
⇒パスします。

・私の勤務先の日本語学校では、1年くらい前までは「オンラインより学校に行きたい！」という学生が多かったですが、オンライン授業メインで2年経って、最近は「オンラインのほうがいい」という学生も増えてきました。また最近の調査で、大学でオンライン授業メインだった新卒は、会社にはいってもテレワーク主体のほうがいいと言っているという結果も見ました。オンラインに否定的な意見が多いですが、もしかしてそれは教師側の見方かもしれないと思い始めています。その点について先生方のコメントがいただけたらと思います。

⇒様々な経験をした後では、今まで考えられないことを考えられるようになるということでしょう。今まではそれしか選択肢がなかったので考えもしなかったことですが、対面教育の魅力を高める工夫をしないと、それを受け入れてもらえなくなるということでしょう。ソフトウェア開発の仕事では「オフショア」として海外にいる開発者同士が会うことなく仕事をするのはコロナ禍以前から当たり前の選択肢の一つです。語学の学びを支援するのであればもちろん対面が自然でしょうが、英語学習でフィリピンにいる話者と結んで会話練習をするシステムはコロナ禍前でもずいぶん普及してきたとも聞いています。

回答を読んでいただきありがとうございました。何かのお役に立てれば幸いです。

以上の回答についてのご質問やお仕事のご相談は、個別メールで受け付けます。

ただし、お礼だけのメールの送付はご遠慮ください(返信しませんが、無視するのはつらいので)。では、またいつかどこかでお会いしましょう。

熊本大学教授システム学研究センター 鈴木克明 ksuzuki@kumamoto-u.ac.jp